活用してこそ高まる地域版ハザードマップの価値

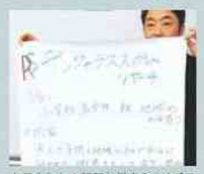
テーマ「子どもたちの防犯」 デンジャラススポットリサーチ

防犯上の危険箇所把握に加えて地域の新たなつながりも生む

「子どもたちが興味を持ってくれるには？」と考えてたどり着いたのが「ゲーム感覚」で参加できるイベントです。一人で出かける機会が増える小学校高学年とその親を対象にし、子ども目線で危険箇所を見つけるのがポイント。内容は、大人と子ども、地域の方々でチームに分かれてまち歩きを行い、危険箇所を探します。事前に主催者が調べておいたポイントにはそれぞれ点数が付いていて、見つけることでチームの点数が加算されていきます。そうやって楽しみながら「防犯」の視点から地域版ハザードマップを完成させていくというもの。高齢者や子ども会、見守り隊なども巻き込んで実施することで、地域に新たなつながりも生まれる一石二鳥、三鳥の企画です。

「競い合うことで楽しめる」「遊んでいるのに役に立つ」という流れがいいですね。地域の見守り隊の方々と子どもたちが一緒に行動することが、結果的に見守る側と見守られる側を引き合わせている点も素晴らしい。人生を豊かにする企画だと感じました。

水野さんからのアドバイス



大学生たちの斬新な視点やアイデアも、企画を考える上で重要なエッセンスになりました

テーマ「多世代交流」 あなたの情報で町を救おう!!

地域の「祭り」の場を利用して情報提供を依頼する逆転の発想！

幅広い世代を対象にしたテーマだけに難しい面もあり、参加者それぞれの地域での実例を挙げながら企画を考えました。古くからの顔なじみが多いコミュニティーはまとまりやすい一方、学生や一人暮らしが多い地域は、(地域で)何が行われているか分からないという人も少なくありません。そこで着目したのが「祭り」です。地域で行われる祭り会場に「ハザードマップ作り」のブースを設置。住民一人一人が、自分の持っている情報を落とし込んでいくことで、多世代・多方面の情報が網羅されます。しかも参加すると、豚汁などがもらえる特典付き。積極的な告知を行えば、祭りの参加者も増えて多世代交流にもつながります。

ハザードマップは、地域の役員が中心になって作成し配布するものが一般的です。それを、「住民に持ち寄ってもらう」という逆転の発想が面白いですね。まちづくりに関心のない人も、いつの間にか参加していて、マップ上で皆がつながることができます。

水野さんからのアドバイス

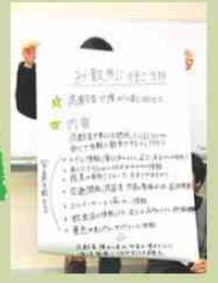
方向性や具体的な企画内容に迷ったグループには水野さんが入り、アドバイスやヒントを提供

テーマ「高齢者支援」 お散歩に行こう!!

誰もが暮らしやすい地域であるための情報を発信！

高齢者だけでなく、障がい者にも向けた企画として提案しました。グループ内で「外出したときに困らないマップを作ろう」と意見が一致。店の入り口やトイレなどは車いすでも使いやすいか、メニューは何があるかなどを、高齢者や障がい者の声を基に項目に挙げ、マップに落とし込みます。他にも公共交通機関、段差やエレベーター→エスカレーターの有無、景色の良いウオーキングコースなどの情報も、写真付きで掲載します。マップを活用して高齢者や障がい者の外出が増え、将来的な環境整備につながればとの思いも込めています。話し合いの中では「この内容はベビーカーを押して移動する家族連れにも応用できるのでは？」との意見も出ました。

「高齢者や障がい者が住みやすい町＝私たちも住みやすい町」という点を意識した企画に



作成した地域版ハザードマップに、「その地域で課題になっていること」をプラスした内容にするアイデアがいいですね。災害時だけでなく日常でも使えるハザードマップ、「ちょっと行ってみようかな」と思わせるタイトルも素晴らしい！

水野さんからのアドバイス

演講要旨 まちづくりのさまざまなテーマに対し、ハザードマップを通して考え・動いてみよう！

講演で水野さんは、「地域ぐるみのイベントなどは住民同士の顔つなぎの機会になるだけでなく、地域の抱える問題の掘り起こしにも役立つ」と強調

災害や、それによって起こり得るさまざまな被害は、普段目には見えません。それを『見える化』して、よりイメージしやすくする手段の一つが地域版ハザードマップです。具体的な危険箇所や想定される被害が分かると、それに対する「備え」や「行動」に移すことができます。

また、地域版ハザードマップは、防災の観点だけでなく「子育て」「高齢者」「防犯」など、さまざまな視点からも作ることができます。そして、どんなテーマでマップを作成するにしても、大切なのは「作って終わり」ではないことです。つまり、マップ作りはあくまでも手段であって、それをどのように地域の中で活用していくかが重要。それがひいては、「まちづくり」につながっていきます。地域版ハザードマップというツールを通じて地域に住む多世代がつながったり、一人一人が発言し動いたりすることで、安全・安心などだけでなく、にぎわいや活気の感じられる『まち』になっていくはずです。

講師・ファシリテーター
水野直樹さん
（スタディライフ熊本理事）

各グループの発表後には、水野さんから企画内容や実施するに当たってのアドバイスが送られました

テーマ「防災」 誰でも分かるハザードマップをまちづくりに生かす！

災害時に在熊外国人にも情報発信を将来的に海外からの旅行者へも

自治会に入っていないと、地域のさまざまな情報が入手しづらいと感じます。ましてや言葉や文字の理解が難しい外国人は、なおさらではと考えて企画。内容は、4月20日に熊本市が行う「一斉避難訓練」に、地域で暮らす外国人にも参加してもらおうというものです。まず、地域内の外国人コミュニティーを探し、そのリーダー的な人を通じて情報を発信し、避難訓練への参加を呼び掛けます。さらに、外国人参加者の意見も取り入れた地域版ハザードマップを作成。その先の展開として、熊本市の観光情報と一緒にハザードマップが入手できる「外国人も分かるハザードマップ」アプリの作成や、印刷したものをホテルなどに掲示することも視野に入れた提案です。

海外からの旅行者は、熊本で暮らしている外国人以上に日本語が分からないので、とてもいい企画ですね。工夫次第で、学校の授業への活用もできそうな内容なので、いろいろな発展が期待できる企画だと思います。

水野さんからのアドバイス

企画を練る段階では、地域版ハザードマップの多言語化なども話題に上りました

第4回セミナーのまとめ

まちづくりを「自分ごと」にまずは自分の動ける範囲から始めて！

イメージできそうでできないのが「まちづくり」。地域で安全・安心に暮らすためには、住民一人一人が参画することが必要です。計4回のセミナーを通して、参加者が「まちづくり」を「自分ごと」として捉えることができたらいいなと思い進めてきました。

今回行った、地域版ハザードマップをまちづくりに活用する企画会議では、それぞれが自分の置かれている現実の環境とまちづくりを重ね合わせて、実現可能な提案が出されました。それも、自分の暮らしとまちづくりが重なり「自分ごと」になったからでしょう。そうなると、地域の中の疑問点や問題点にも目がいくようになります。とはいえ、いきなり大きなことから始めようとすると、障壁ばかりが目に付き実現が遠のくばかりです。今回のセミナーで、地域で暮らしているからこそ提案できるまちづくりがあると感じてもらえた皆さんには、できるだけ小さく、自分の動ける範囲から始めてほしいですね！

セミナーで学んだことをぜひご自身が暮らす地域で生かしてくださいね！

参加者の感想

学んだことを生かし地域に「見守り隊」を

私の住む地域にはマンションが増え、それに伴い子どもも高齢者も増加し「見守り隊」の発足が喫緊の課題です。将来、私も見守ってもらう立場になるので、セミナーで学んだことを生かし、活動の要となって“でけたしこ”でやっていきます。

松倉麻美さん

たくさんの「困った」集めるツールを

地域の中には、高齢者や障がい者にとって不便なことがたくさんあると知りました。セミナーで得た情報を発信し、多くの人に伝えていくことが大事。困っている人しか分からないことがもっとあると思うので、そうした情報を集められるツールがあればいいと思いました。

熊本大法学部・伊藤ゼミの皆さん

「まちづくりは行政の仕事」という考えが一変！

自分の視野を広げる機会になればと思い参加しました。まちづくりは行政がするもの」というイメージが強かったのですが、誰でも参加できるのだと気付きました。自身でSNSを使い、障がいのある方に向けた飲食店などの施設情報を発信しているので、今後も続けていきます。

森雄也さん

参加者同士の情報&意見交換も役立つ

セミナーに参加することでさまざまな世代や地域の方に会うことができ、楽しかったです。知らない情報を得ることができるだけでなく、私の情報が誰かの役に立つことも。まちづくりには、こうしたお互いにプラスになる場と、人づくりが大切だと思います。

フェレロ恵美さん

まちづくり探検隊 読者アンケート

「まちづくり探検隊」を読んで感じた、まちづくりや地域活動への興味・関心や、あなたが参加したい活動などを教えてください！

①あなたは普段、まちづくりや地域活動について関心がありますか？（○は1つだけ）
1. とても関心がある　2. やや関心がある　3. あまり関心がない　4. まったく関心がない

②（①で1または2と答えた方）どんな活動に関心がありますか？（○はいくつでも）
1. 清掃　2. まちなみ保全　3. 子育て　4. 青少年育成　5. 教育　6. 文化
7. スポーツ　8. 防犯　9. 防災　10. 高齢者福祉　11. 健康増進　12. 環境美化
13. 緑化　14. 観光　15. まちおこし　16. その他（　　）

③まちづくりや地域活動に参加したことがある、または参加していますか？
1. 参加したことがある（している）　2. 参加したことがない

④（③で参加したことがあると答えた方）それはどんな活動ですか？

⑤（③で参加したことがないと答えた方）その理由を教えてください。

⑥将来、まちづくりや地域活動に参加したいですか？
（現在参加している方は今後も参加したいですか？）（○は1つだけ）
1. 参加したい　2. どちらとも言えない　3. 参加したくない

⑦（⑥で参加したいと答えた方）それはどんな活動ですか？（○はいくつでも）
1. 清掃　2. まちなみ保全　3. 子育て　4. 青少年育成　5. 教育　6. 文化
7. スポーツ　8. 防犯　9. 防災　10. 高齢者福祉　11. 健康増進　12. 環境美化
13. 緑化　14. 観光　15. まちおこし　16. その他（　　）

⑧「くまにちすぱいす」に掲載している「まちづくり探検隊」を読んだことがありますか？
1. 読んだことがある　2. 読んだことがない

⑨（⑧で読んだことがあると答えた方）印象に残っている特集はありますか？（○はいくつでも）
1.「江津湖の自然と水を守る会」の活動体験　2.「池上校区ウォーターボーイズ」の取材
3. こども会の活動の取材　4. 消防団の活動体験　5. 校区自治協議会・町内自治会の活動の取材
6. 校区防犯パトロールの活動体験　7.「川尻精重流し」活動の取材　8. 特別編 第1回セミナー詳報
9.「防災キャンプ」の活動体験　10. 総合型地域スポーツクラブの取材
11. 民生委員・児童委員の活動の取材　12.「隈庄校区自治協議会」の取材
13. 特別編 第2回セミナー詳報　14. 交通指導の体験　15. ごみステーションの取材
16. 清水校区社会福祉協議会の活動取材　17. 青少年健全育成協議会の取材
18. 地域コミュニティセンターの取材　19. 特別編 第3回セミナー詳報　20.「曲田農業ネットワーク」の取材
21.「やまもと女性の会」の取材　22.「横井小橋顔彩会」の取材　23.「河内・芳野地区老人クラブ連合会」の取材
24. 特別編 第4回セミナー詳報　25.「下内田公民館」歴代館長の皆さんの取材　26. どれでもない

⑩（⑧で読んだことがあると答えた方）「まちづくり探検隊」の紙面を読む前と後を比べてみて、まちづくりや地域活動に対するあなた自身の意識や行動に、次に挙げるような変化はありましたか？（○はいくつでも）
<読む以前に地域活動に参加したことがある方>
1. さらに興味・関心が高まった　2. さらに参加意欲が高まった
3. 参加する地域活動の数（または頻度）が増えた　4. 変化なし　5. その他（　　）

<読む以前に地域活動に参加したことがなかった方>
6. 興味・関心が高まった　7. 参加意欲が高まった　8. 実際に地域活動に参加した
9. 変化なし　10. その他（　　）

⑪あなたの年代と性別を教えてください。
<年代>20代　30代　40代　50代　60代　70代以上

<性別>男性　女性

アンケートに応募いただいた方の中から抽選で30名に粗品を進呈

■応募方法
アンケート項目の回答のほか、氏名、郵便番号、住所、年齢、電話番号、メールアドレスをご記入の上、下記の要項でお送りください。

■対象
熊本市に在住または通勤、通学する20歳以上の男女

締め切り 3/8（金）

はがき
〒860-8506　※住所は不要です
熊本日日新聞社　業務推進局営業企画部
「かたってみようまちづくり」セミナー係
※個人情報は連絡のみに使用します

FAX
096(372)8711

すぱいすHP応募フォーム
右記のQRコードから飛べます